

県南教育事務所  
教育情報



平成28年8月24日(水)  
No. 6【通刊第97号】  
文責：八木浩司

## 「心の居場所」となるような環境づくりを

2学期が始まりました。子どもたちは、新鮮な気持ちで新学期を迎えているのではないのでしょうか。一方で、なかなか学校に足を向けることができずにつらい思いをしている子ども、大きな困り感を抱えている保護者、子どもを学校とつなごうと努力を続けている先生がいます。今回は、1学期末時点の県南教育事務所管内の不登校の状況についてお知らせします。また、9月1日～30日が岩手県自殺防止月間であることから、全国的に懸念されている児童生徒の自死についても取り上げます。

目指すは、安心して安全な環境の中で、自分の目標に向かって生き生きと生活する権利がある子どもたちに対して、私たち大人が、そのような環境をつくるために力を尽くすことです。

### データ1 『県南教育事務所管内の不登校の状況』

	単位(人)		
	H28	H27	差
小1～小4	4	1	+3
小5	4	5	-1
小6	7	4	+3
中1	15	3	+12
中2	24	15	+9
中3	39	40	-1

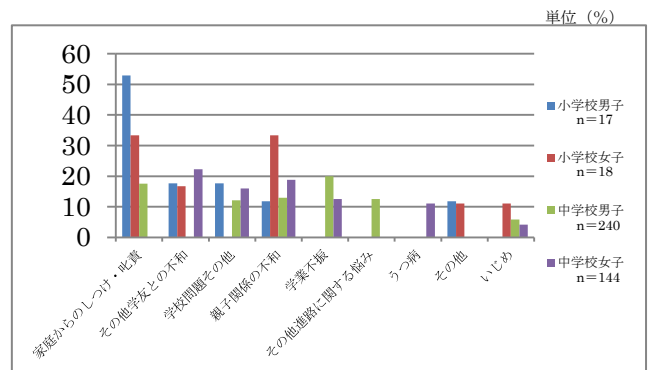
※1学期末時点(7月末)の人数

※不登校：欠席日数が30日以上となっている児童生徒

前年度を大きく上回る状況です。特に中学校で不登校になった生徒が多いのが特徴です。この背景と原因や要因は何でしょうか。“いつから”“きっかけは”“何に困り悩んでいるのか”などを、できるだけ多くの大人が組織的に関わり、柔軟に、丁寧にとらえ対応していくことが大切です。

また、日常的な取組として、未然防止、早期発見・早期対応、共通理解に努めること、必要な場合は、情報共有を含め、関係機関と連携することも重要です。

### データ2 『小学生、中学生の自死の原因・動機』



※平成19年～26年の累計、平成27年度版自殺対策白書より(全国値)

警察庁「自殺統計」より内閣府が作成したものを一部改作したグラフです。主な原因として3つまでとらえたもので構成されています。傾向としては、小学生は家庭に関する項目で、中学生は多岐にわたって悩みを抱えている状況がうかがえます。なお、高校生になると、男子においては学業に関する項目が、女子においては病気に関する項目が増加します。

### 『子どもを守るために』

- (1) SOSが伝えられる環境づくり
- (2) 気付きの力を高める
- (3) 相談体制の整備・充実

ある中学校の調査で「死にたい」と打ち明けられた生徒は約20%も。しかし、大人に相談した生徒は3%に過ぎない結果があります。

### 『合言葉は「きょうしつ』』

- ㊸…きづいて
- ㊹…よりそい
- ㊺…うけとめて
- ㊻…しんらいできる大人(関係機関)に
- ㊼…つなぐ

<参考資料>

教師が知っておきたい子どもの自殺予防(平成21年3月文部科学省)

子供に伝えたい自殺予防一学校における自殺予防教育導入の手引き(平成26年7月文部科学省)

### 『子どものSOSのサイン』

- すぐに涙ぐみ、独り言をいう
- 行動、性格、身なりが突然変化する
- イライラして集中力がない
- 頭痛や腹痛など「痛い、つらい」と訴える
- 好きなことにも興味を失う
- 「食べられない」「寝られない」などと訴える
- 「消えてしまいたい」とほのめかす
- 薬物の乱用
- 自傷行為
- 最近の喪失体験
- けがを繰り返す
- 別れの用意・整理(大切なものをあげる)
- 絶望している